

第1回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2015年7月9日（木）15時30分～16時30分

場 所：川崎市役所第3庁舎18階 第1会議室

出席者：〔委員〕小倉、庄司、末吉、鈴木、瀧田

〔川崎市〕地球環境推進室 井田、石井、新谷

〔事務局〕一般社団法人CAT 小熊、山崎

1 開会

2 議題

(1) 委員長及び副委員長の選出について

事務局CATによって、委員会の設置要項が読み上げられ、引き続き委員長と副委員長の選出を行った。委員長に庄司委員、副委員長に瀧田委員が推薦を受け、満場一致で承認された。

以降の議事は、庄司委員長が進行した。

(2) 参加団体の活動報告の状況について

事務局CATから、活動報告の提出状況について資料に沿って報告された。委員から、スリーピング（活動停止状態）の団体はないのか、という質問があったが、報告書は提出されていない団体でも例えば6月末のエコ・クロスマッチングに出展するなど活動は活発に行われていることは確認している、と回答があった。

(3) かわさきコンパクトの事業計画について

資料に沿って、事務局から今後の事業計画の提案がされた。市より以下の2点が加えられた。

- 国際環境技術展は2016年2月18、19日の2日間で、かわさきコンパクトセミナーとしては19日11時から13時の間の1時間程度を予定。COP21終了後のタイミングになるので、ターニングイベントとして大きく開催したい。
- 交流会に、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（以下、GCNJ）の「ジレンマゲーム」を取り入れることを検討している。「ジレンマゲーム」とは、デンマークのKPMG社が開発した、企業が事業活動を通じて直面するジレンマに焦点を当てたボードゲーム。国内ではまだ3例しかない。企業、市民、株主、地域など6つの役割を持ちゲームを進めることでお互いの理解を進めるためのゲームである。

事務局からの提案・報告について、それぞれ意見交換を行った。

① エコ・クロスマッチングについて

- ▶ (委員長) 一般の方の参加は思うように伸びなかったが、市民団体の活動を聴いた企業がその後マッチングしていい流れだったという意見をいただいた。事業者も数社、定期的に参加してくれるようになった。全体に対するアンケートの中で一番認知度が高かったのが、かわさきコンパクト (以下、KC) だった。
- ▶ (委員) 川崎市内で多くの市民の方が幅広い年齢、分野で活動していること、きめ細かい、地に足の着いた活動をされていることに感動した。これはより広い市民の方にお知らせする機会があると、支援者や参画者が増えると思った。このような市民団体と、企業との接点の場の提供があると、共通項が見いだせて双方啓発される部分があるかと思う。
- ▶ (副委員長) このイベントでは、市民の活動に投票するが、市民が企業の活動に投票をする、というのもいい。CSR に積極的に取り組んでいる企業も、市民からの応援があればやる気が出るのでは、と思う。
- ▶ (市) こういう機会を如何に作っていくか、エコ・クロスマッチングの取組みは KC の取組みと親和性がある。コンパクトの活動の軸になってもいいかと思う。

② ジレンマゲームについて

- ▶ (市) 実施実績は国内で 3 回、ヨーロッパ的な発想のジレンマなので、GCNJ 曰くそぐわない場合は独自に設定してもいいと聞いている。川崎らしいジレンマを考えることも検討したい。ジレンマの設定をどのようにやるのかなどは GCNJ もまだ試行錯誤で、川崎市でやるのであれば、ご協力いただけるとのこと。実際どのように進めるかは、議論が必要かと思う。
- ▶ (委員長) ジレンマゲームを川崎市として先駆けて取り組むのはいい。

③ 川崎国際環境技術展について

- ▶ (委員長) 昨年度のステージでのセミナーはよかった。今年度は特に COP21 の後、ということでぜひ末吉委員にご登壇いただき、活を入れていただけるといい。
- ▶ — 全員異議なし
- ▶ (末吉委員) 予定に入れておきます。

④ 登録団体の拡充について

- ▶ (委員長) 企業に関しては、スケジュールを立て、声かけをしていく必要がある。エコ・クロスマッチングに参加した団体に声をかけていきたい。参加することがステイタスになるようにしていきたい。
- ▶ (副委員長) 企業への声かけについて、市でリストアップしていただけると動きやすいのでお願いしたい。

(4) かわさきコンパクトの今後の展開について

川崎市より、かわさきコンパクトの今後の展開に対しての提案があった。

川崎市が GC に参加して来年で 10 年、KC の策定から 8 年経つ。10 年前に設計したときは理念先行で、10 年近く経つがその形に至っていないところもある。基本設計書を、今の時代に合ったものに少しずつ変革していく必要がある。ここで原点に戻り、自治体として唯一 GC に参加している川崎市として、できることは何か見極めながら改善していきたい。

<提案内容>

- 参加方式の簡素化・参加活動報告書の PR
- 市民コンパクト宣言の改新
- セミナー・交流会の活性化

以上の提案に対して、意見交換を行った。

- (委員) この 1, 2 年でコンパクトの取組も 10 年になる。市長と国連事務総長を会わせたい。実現できるかどうかは難しいが検討に載せたい。また、こどもコンパクトができないか。
- (委員) かわさきコンパクトの基本設計の変更は構わないが、GC をベースにすることが前提で、GC のフィールドの中で見直しをすることが大事な視点である。あくまでも「コンパクト (=約束)」として掲げるのであれば、約束事に透明性があり、約束したことはちゃんと履行する、という制度であればいい。約束は守っているよね、という確認は必要である。
- (委員) 市役所、ビジネス (多くの工場を持つような産業型)、住民としての市民が川崎市の 3 つの大きなステークホルダーである。そういうひとたちの間のコンパクトということであれば川崎市の特長がでるのではないか。どういうステークホルダーに参加してもらうのがいいのか。マクロからみたかわさきコンパクトの新しいありかたを考えた時に、どういうステークホルダーがいるのか、それを巻き込むにはどういう参加方式がいいのか、と言う視点で考えて欲しい。
- (市) 川崎市として GC に署名していて今までは報告義務がなかったが、今年度から必要となった。今年 10 月末までに市長による GC 継続の表明も必要不可欠であり、そのための市長へのインプットの仕方も含めて、末吉参与にはぜひご協力をいただきたい。

- ▶ (委員) 子どもコンパクトについて。川崎市には子どもの権利条例がある。子ども会議も実施している。同じような形でやれないことはないし、既存の子ども会議に乗じることも可能ではないか。かわさき市民活動センターが実施している子どもサミットは、毎年テーマを設定し各地区で話し合い、最後は代表が集まって発表する、ということをしている。例えば、そのテーマに **KC** を提案していく、という方法もある。
- ▶ (委員) 子ども版ジレンマゲームも取り入れるとより子どもに伝わりやすい。
- ▶ (委員) 川崎市では以前よりアジアとの格差を考える「貿易ゲーム」を子どもも大人もやっている。お金を払って何かを買う。お金がないと何もできない、などをゲームで学んでいく。ジレンマゲームもやることで考えるきっかけになるような中身であるならものすごくいいと思う。
- ▶ (委員長) 新しいステークホルダーを「子ども」と考えてもいいかと思う。市民コンパクトの「宣言 2」は、未来をどう作っていくか、未来、すなわち今の子どもたちに何を残していくか、というのが根源にあった。子どもコンパクトの理念、考え方を盛り込んでいけるといい。その際、受け皿があると継続しやすいかと思う。
- ▶ (市) 「エネルギー・環境子どもワークショップ」という取り組みもある。毎年 20 校ほどが参加している。そういうところへの働きかけも検討に入れたい。10 月末までにコミットメントをしなくてはいけないので、いただいた意見を市側でも整理をして、市長へのインプットをどうしていくか、戦略的に考えたい。「今まで」ではなくて「今後に向けて」をコミットメントするような内容にしたい。
- ▶ (委員長) そういう意味でも「子ども」というキーワードはいいかと思う。
- ▶ (副委員長) マンパワーの限界もあるので、既にやっていることをつないで活用できるといいかと思う。
- ▶ (市) 庁内の中で意味づけ、情報を集約して報告書にできればと考える。今はどの事業でも単独で行うことの限界を感じており連携した形で進めることが重要であることを踏まえ、庁内で進めていきたい。
- ▶ (市) 子ども向けのジレンマゲームなど、見えるものがあるとわかりやすいので、ツールを考えていきたい。子どもに限らず、ツール不足という認識があって、情報発信のツールとして冊子制作をしたが、このほかにもツールを充実させていきたい。

- (委員) KCが単独であるということはない。市役所が感じる問題点、すなわち壁を崩す手段としてコンパクトを捉えてもらえないか。横軸になるのがコンパクトの精神で、縦割り行政のベースになるものとしてコンパクトを作っていく。そういうアプローチのほうがわかりやすい。
- (委員) ビジネス・コンパクトに参加している日本理化学工業㈱は、障がい者雇用が表彰されている。この会長からも、KCは環境が中心である、と指摘を受けている。障がい者雇用に取り組んでいる優れた企業にも目を向けて欲しい。
- (委員) 外国人も視野に入れて欲しい。外国人労働・雇用に取り組んでいる企業があるので、そこに声をかけていきたい。外国人からすると外国人市民代表者会議がある川崎市は、住みやすい街と思われている。この視点も取り入れて欲しい。
- (市) 現在、自治推進部で連携協働の在り方、市民、企業、市民が入った連携検討委員会を実施していて、KCと親和性があると考え。そういう部署と連動し、またKCらしさをどう出すか、本日アイデアをいただいたので、市として検討して提案していきたい。
- (副委員長) 国際環境技術展の提案だが、参加企業が登壇する場を設けたい、60分以上とすることはできないか。
- (市) 60分より長くするのは難しいので、末吉参与の講演のあと10分～15分くらいをとって末吉参与とのトークなどはどうか
- (委員) ステージでは短いプレゼンで後はブースで、というのがいい。
- (市) 企業からは発表の機会があるのは有り難い、という言葉をいただいている。できるだけ事業者に発表できる場を提供していきたい。

3 事務連絡

次回の日程に関してはメールで調整することとなった。できるだけ全員参加で臨みたいとの意向が市から示された。

小倉委員から、「ごえん楽市」は、来年1月30日土曜日開催が決定されたことが報告された。

4 閉会